

川越市公立保育所のあり方について（案）

○公立保育所のあり方検討の経緯

市では、これまで共働き世帯の増加等を要因とする保育需要の高まりに対応するため、積極的に民間保育所整備を進め、待機児童解消に努めてまいりました。令和2年4月の待機児童数は2人まで減少し、近く待機児童は解消される見込みとなっております。

一方で、就学前児童数は減少傾向にあり、将来的に保育サービスの供給が過剰となることが見込まれます。また、本市の公立保育所は老朽化が進行している状況にあり、こうした課題に対し、今後の方向性を定めるため、公立保育所のあり方について検討を進めています。

